

共助井戸に必要な仕組みづくりを 不足する生活用水の確保へ

公衛協が
取り組む
防災・減災
③

土砂災害や地震などの災害で、水道設備が破損すると、水道が利用できなくなります。皆さまの地域では、水道が使えない状況を想定した備えを考えていますか。

多数発生している災害の場合、道路や庭、床下、床板、壁、家財の清掃に必要な水の量は、かなりのものになります。

平成30年7月豪雨災害以降、見直されているのが井戸の活用です。『共助井戸』や『防災井戸』として、個人・企業が所有する井戸を、いざという時に近所で利用し合う仕組みです。

ここ数年の災害を振り返ると、生きるのに必要な飲料水は、ペットボトルや給水車などで、すぐに公助が入ります。しかし、体の汚れを流したり、洗濯、掃除をするには量が足りません。このような時に井戸水があると、大変心強い存在となります。特に、床上浸水が

公衛協が取り組む共助井戸は、拠点型、広域マップ型など、地域の実情に合わせた視点の異なる取り組みが展開されています(第623号(5/1発行)3面参照)。どの事例を見ても、根底にあるのは、地域の危機管理意識と助け合いの心、郷土愛だと感じます。ご近所や地域団体とコミュニケーションをとり、共助井戸の有効性・継続性を考えながら取り組まれています。

井戸の調査、平時・有事の運用方法、検査の有無や費用負担、水の運び方や道具の持ち方など、多くの協議が必要です。また、自主防災会や自治会などの連携も必要で、簡単な取り組みではありませんが、地域の公衆衛生を維持するためには重要なテーマだと考えます。公衛協における防災の取り組みとして、我がまちに必要な共助井戸の仕組みづくりを検討してみませんか。

(地域活動支援センター)



福山市竹鼻学区では、公衛協と自治会が協力して仕組みづくりを進めている

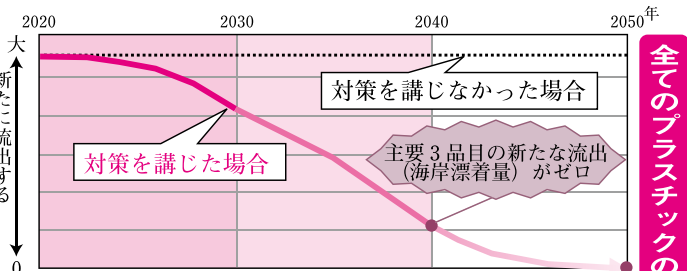
県東部海岸で会員向け清掃活動

漂着ごみやマイクロプラスチックを回収



広島県は、令和3年6月に、海洋プラスチックごみによる環境汚染に実効的な対策を強化

するため、『2050 輝く GREEN SEA 瀬戸内ひろしま宣言』を発表しました。併せて、幅広い業種の企業や団体・行政などをメンバーとする「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム 通称「GSHIP(ジーシップ)」を設立しました。



第1フェース 主要3品目に絞った短期的取組 長期的取組の準備・検討	第2フェース 主要3品目に絞った 長期的取組	第3フェース 主要3品目以外の プラスチック対策への展開
プラスチックの使用量の削減	プラスチックごみの流出防止	プラスチックごみの清掃・回収
情報の収集、発信、共有		

*主要3品目・・・ペットボトル、プラスチックボトル、レジ袋

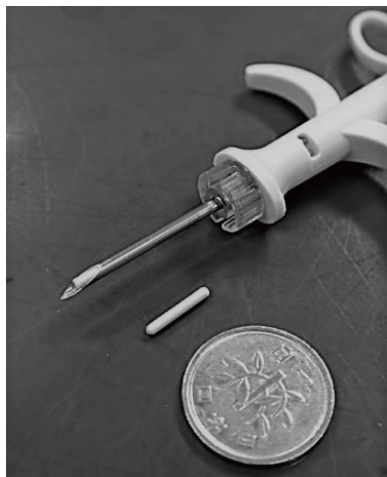
2050年における新たなプラスチックごみの海洋流出ゼロ実現に向けたイメージ

動物の 愛護と管理 を考える②

着けていますか？マイクロチップ

万が一の時、飼い主のもとへ帰るために

みなさんはマイクロチップを知っていますか？マイクロチップは、直径1〜2ミ、長さ1センチ程度の小さな電子標識器具で、世界で唯一の15桁の数字が記録されています。この数字は環境省などのデータベースに登録することで、飼い主の情報と紐づけることができます。みなさんのペット(犬や猫)がマイクロチップを装着していれば、



装着するマイクロチップ。1円硬貨と比べても非常に小さいことがわかる。

迷子の際、災害時などに離れ離れになっても、保護され、専用のリーダー(読取機)で数字を読み取ることで、飼い主のもとへ帰ることが出来ます。ペットは自分の家を伝えることができないので、マイクロチップを装着しておらず、首輪や迷子札が外れてしま

うと、誰の家の子なのかを知ることができません。

マイクロチップは、獣医師が専用の注射器でペットの首の後ろの体内に装着します。首輪等と違って外れる心配がありません。装着時の痛みは一般的な注射とほとんど変わらないと言われており、また、チップの表面は生体適合ガラスで覆われているため、

副作用など動物の体に負担をかけることなく、装着し続けることができます。

動物の愛護及び管理に関する法律の改正により、一般の飼い主も、いま飼っている犬や猫にマイクロチップを装着することが努力義務になりました。どんなに気を付けていても、散歩中に驚いて首輪が外れてしまったり、災害時に窓が破損するなどして、離れ離れ



マイクロチップを装着される子犬

とがあります。万が一の時に備えて、首輪や迷子札に加え、マイクロチップの装着も行いましょう。

詳しくは、「広島県マイクロチップ」で検索をお願いします。(広島県健康福祉局 食品生活衛生課)



昨年度 GSHIP 主催の海岸清掃の様子

今年度も昨年同様の活動が、11月6日(日)に、尾道市因島の因島アメニティー公園(し)で行うまとめの会で、集めたごみの量などを共有したり、漂着ごみについて学習する計画です。



▲GSHIPの最新情報は
こちらから

また、GSHIPでは、海洋プラスチックごみ削減に向けた学習活動にも取り組んでおり、小学校や公民館での出前講座も行っています。

あらゆる主体で取り組む清掃・回収活動による海洋プラスチックの除去や、企業における素材や省資源の低環境負荷製品の開発・利用、住民における分別の徹底や環境負荷の少ない製品の利用など、できることを積み上げて、海の環境保全にみんなで取り組んでいきましょう。

(地域活動支援センター)